

TOPICS

1

大学間連携で研究成果の社会実装を加速
奈良先端科学技術大学院大学と包括連携

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」では、研究成果を新たな価値へとつなげるイノベーション創出基盤の強化を進めます。今回は、「奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）との包括連携による研究成果の社会実装の加速」についてご紹介します。

2026年8月7日、NAISTと「研究データ等の利活用に関する包括連携協定」を締結しました。両大学はいずれもJ-PEAKS採択大学であり、それぞれが有する研究基盤、技術、人材、実証フィールド、ネットワークなどの強みを持ち寄り、研究力の強化と研究成果の社会実装を加速することを目指します。

本学は、医療・健康や地域、産業などに関する多様な研究データや社会実証のフィールドを有しています。一方、NAISTは、情報科学や情報セキュリティ分野における高い研究力に加え、自律的研究強化・社会実装システム「ARWIT」などを活用した研究DXを推進しています。こうした両大学の強みを組み合わせ、研究データ、地域データ、医療・健康データ、産業データ等を安全かつ適正に利活用できる次世代セキュアデータ基盤の構築を進めます。具体的には、セキュアデータ技術を活用したデータ利活用基盤の構築、AIやARWIT等を活用したデータ駆動型研究、研究開発プロセスの高度化、電子ラボノート等による研究データ管理の高度化に加え、共同研究、研究成果の社会実装、研究者・技術職員・研究マネジメント人材等の人材交流にも取り組みます。

J-PEAKS採択大学同士の連携

— 互いの強みを生かし、研究から社会実装へ —



8月7日に本学津島キャンパスの共創イノベーションラボ(KIBINOVE)で行われた調印式には、NAISTの塩崎一裕学長、本学的那須保友学長をはじめ、両大学の関係者が出席しました。

協定書への署名後には意見交換を行い、それぞれの強みを生かしながら、新たな共同研究や人材交流、社会実装へと連携を発展させていく方向性を確認しました。



今後は、両大学によるワーキンググループを設置し、具体的な連携テーマや共同実証等について検討を進めるとともに、他大学、研究機関、企業等も含む広域的な連携への展開を目指します。本連携をJ-PEAKS「取組2：イノベーション創出」の実践モデルの一つとして、J-PEAKS採択大学同士が互いの特色と強みを生かし、新たな価値を創出する大学間連携へと発展させていきます。

主な取組



〇那須保友学長のコメント

J-PEAKSの大きな意義の一つは、採択大学がそれぞれの強みを磨くだけでなく、大学同士が連携し、知見や基盤を持ち寄ることで、我が国全体の研究力を高めていく点にあります。

本学とNAISTは、それぞれ異なる特色と強みを持つJ-PEAKS採択大学です。両大学が連携することで、一大学だけでは生み出せない新たな研究やイノベーションの可能性を切り拓けると考えています。本協定を、採択大学間で知見やノウハウを共有し、新たな共創を生み出すモデルへと発展させ、J-PEAKSが目指す「世界に誇れる研究大学の山脈」の形成につなげてまいります。

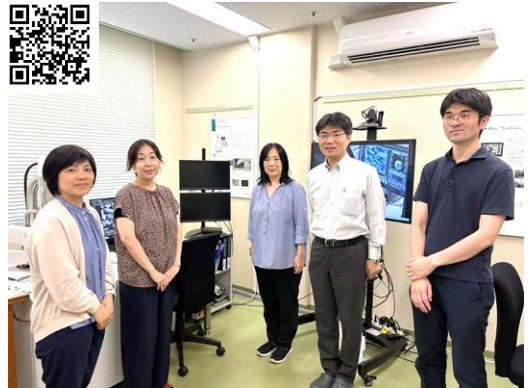


TOPICS 2

本学技術職員が長岡技術科学大学主催 TCカレッジ「機器遠隔化・活用スクール」を受講

本学総合技術部教育支援技術課の中村有里技術専門職員が、長岡技術科学大学技術支援センター主催TCカレッジ「機器遠隔化・活用スクール」を受講しました。分析機器の遠隔化から実機を用いた遠隔測定を体験し、研究支援への活用や技術職員のさらなる高度化が期待されます。本学と長岡技術科学大学はJ-PEAKS採択校として連携を深めており、研究基盤を支える高度人材の育成を通じてJ-PEAKSの取り組み推進にもつながることが期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15613.html



TOPICS 3

本学職員2人を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～

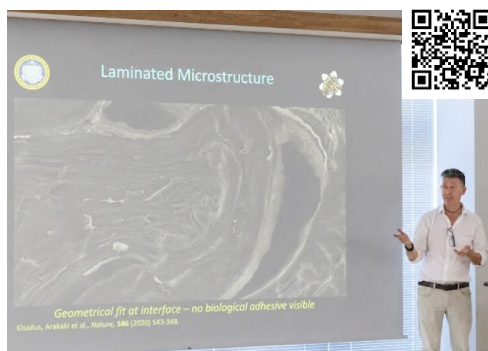
本学は、総合技術部の石原すみれ技術専門職員、北條優子技術専門職員を新たに「岡山大学研究開発マネジメント人材」として認定しました。本認定は、研究開発マネジメント業務を主体的かつ積極的に担う人材の養成と教職員の高度化を目的とするものです。今回の認定により認定者は計12人となり、研究者と研究開発マネジメント人材が連携して研究開発に挑戦する環境の醸成を推進します。本制度はJ-PEAKSを活用した大学改革の一環であり、研究力強化と研究専念環境の充実につながる取り組みです。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15617.html



TOPICS 4

水圏環境科学の最前線を共有：「第3回水圏環境科学セミナー」を開催



本学は、「第3回水圏環境科学セミナー」を津島キャンパス共創イノベーションラボ(KIBINOVE)で開催しました。水と環境、それに関わる新素材の最新の研究動向を共有し、学際的な連携を促進することを目的に実施され、約30人が参加しました。カリフォルニア大学アーバイン校のDavid Kisailus教授が講演し、生物の機能を応用した新材料開発について紹介しました。本セミナーはJ-PEAKSの取り組みの一環として開催され、今後も先進材料研究や研究者交流を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15619.html

TOPICS
5

KIBINOVEに設置した津山高専サテライトオフィス開所イベントを開催



津山工業高等専門学校（津山高専）のサテライトオフィス開所イベントを本学津島キャンパスの共創イノベーションラボ（KIBINOVE）で開催しました。津山高専は高度情報専門人材の育成を推進しており、サテライトオフィスの企業人材を活用した教育プログラムの実施や産学連携活動の拠点として活用しています。当日は「KOSEN RISE」をコンセプトに、遠隔講義のデモや卒業生によるリレートークを実施しました。今後もKIBINOVEをハブとして、高専生と大学生、企業、地域をつなぐ新たな学びと共創の機会を創出し、J-PEAKSの取り組みとも連携しながら地域社会の発展に貢献します。



独立行政法人国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校
NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, TSUYAMA COLLEGE



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15663.html

TOPICS
6

TCカレッジ医工系コース中級カリキュラム「フローサイトメーター（基礎）」を実施～技術職員の知識・技術修得により、研究支援力を強化～

本学総合技術部は、TCカレッジ「医工系TCコース」の中級カリキュラム「フローサイトメーター（基礎）」を開講しました。オンラインによる座学と対面実習を通じて、フローサイトメーターの種類や構造、解析原理、機器の操作方法や測定・解析方法などを学びました。本学技術職員に加え学外受講者も参加し、研究支援に必要な知識・技術の修得を進めました。本学はJ-PEAKSなどを活用し、技術職員の高度化と研究・教育・臨床支援の強化を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15606.html

TOPICS
7

PMI日本支部「アカデミックスポンサー・カンファレンス2026」～AI for Scienceの波における博士人材育成とAIマネジメントについて議論～



PMI日本支部「アカデミックスポンサー・カンファレンス2026」が開催され、本学の佐藤法仁副理事（研究・産学共創総括担当）・副学長（学事担当）・上級URAが登壇しました。「AI for Scienceにおける博士人材の育成とマネジメントの模索」と題し、博士人材育成におけるAI活用や、研究におけるAIマネジメントの現状と今後の課題について紹介し、活発な意見交換が行われました。本学は今後も教育研究におけるプロジェクトマネジメントの普及と知見の提供を進め、J-PEAKSの取り組みを通じた研究大学の発展に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15644.html

TOPICS
8還元酸化グラフェン上でのホモエピタキシャル成長による
高結晶・高移動度グラフェン薄膜の実現(次世代電子デ
バイス応用に向けた新たな結晶化機構を発見)

根岸良太教授(東洋大学)、仁科勇太教授(岡山大学)らの研究グループは、還元型酸化グラフェン(rGO)表面にグラフェンを成長させることで、薄膜の結晶性と電気特性を大幅に改善することに成功しました。安価で大量生産が可能なrGOの課題であった電気伝導性の低下を克服し、高い電子の流れやすさを実現しました。本成果は、透明導電膜やセンサーなど次世代電子デバイスの実現を後押しすることが期待されます。J-PEAKSが推進する先端研究力の強化と社会実装にもつながる成果です。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1593.html

TOPICS
9ひずみで「2つの超伝導」を分離！電子を惑わすカゴメ金
属～世界が注目する物質で、新たな超伝導の制御法を
発見～

川崎慎司准教授と鄭国慶教授らの国際共同研究グループは、カゴメ超伝導体「 CsV_3Sb_5 」に独自開発の一軸ひずみセルで応力を加え、従来1つと考えられていた超伝導が「非従来型」と「従来型」の2つの状態に分離することを世界で初めて発見しました。さらに、引張ひずみにより非従来型超伝導が強く増強されることも確認。超伝導の新たな制御法として、次世代量子デバイスや高性能超伝導材料の開発への貢献が期待されます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1601.html

TOPICS
10文部科学省「AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業
(SPReAD)」に本学から20課題が採択
～AI for Scienceを活用した研究力強化を一層推進～

文部科学省の「AI for Science」による科学研究革新プログラム AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業(SPReAD)」において、本学から第1回公募で5課題、第2回公募で15課題の計20課題が採択されました。本学では幅広い研究分野でAIを活用した研究に挑戦しており、AIと各研究分野との融合をさらに促進するとともに、学生や教職員が新たな研究課題に挑戦できる研究環境の整備や支援を進めています。AI for Scienceによる研究の高度化・加速化を一層推進し、J-PEAKSの取り組みを通じた研究力強化とイノベーション創出につなげます。



文部科学省

研究の可能性を、AIで解き放つ

AI for Scienceの波及・振興を促進し、研究者等による新たなアイデアへの挑戦を強力に支援します

AI for Science 萌芽的挑戦研究創出事業

研究課題募集

年間1,000課題採択

AI利活用の初心者歓迎

AI利活用開始の伴走支援・コミュニティ形成支援あり

AIの急速な進展と社会への浸透を背景に、AIを科学研究に組み込む「AI for Science」は、研究の創造性及び効率性を大きく向上させ、研究の在り方そのものに急速かつ抜本的な変革をもたらしつつあります。

このようななか、米国・欧州をはじめ各国がAI for Scienceを国家戦略として推進する動きが加速しており、我が国においても、あらゆる分野へAI for Scienceを波及・浸透させるための取組を、スピード感と危機感を持って推進することは、我が国の科学研究力の強化に向けた喫緊の課題です。

このため本事業は、我が国のあらゆる分野の研究者等がAIを活用して科学研究の高度化・加速化を図ることができるよう、萌芽的・探索的な研究を機動的に支援することにより、AI for Scienceの波及・振興を促進し、我が国独自の競争優位につながる新たな研究の種や芽を出させることを目指します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15643.html

TOPICS
11

高温トポロジカル超伝導を制御する舞台と手法を発見

高温トポロジカル超伝導を制御する舞台と手法の発見において、小川晟吾大学院生と指導教員の鄭国慶教授らの研究グループは、高温超伝導体「 $K_2Cr_3As_3$ 」で複数のトポロジカル超伝導相が存在することを発見し、さらに磁場や温度によってその状態を制御できることを明らかにしました。トポロジカル超伝導体は次世代量子コンピューターへの応用が期待される材料であり、本研究はその基礎理解を大きく前進させる成果です。また、一つの物質で複数のトポロジカル相を確認したことで、将来の量子デバイス開発や産業応用への展開が期待されています。研究成果は米国物理学会誌*Physical Review Letters*に掲載され、注目論文(Editors' Suggestion)にも選出されました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1590.html

TOPICS
12

令和8年度岡山大学若手職員塾 第2回講義を実施～大学の「流行」の取り入れ方を学ぶ～

令和8年度岡山大学若手職員塾の第2回講義を本学津島キャンパスの共創イノベーションラボ(KIBINOVE)で開催しました。今年度の若手職員塾は、那須学長が大学経営の理念として掲げる「不易流行」のうち、「流行」をテーマとして開講しています。第2回では、「大学における『流行』の取り入れ方を学ぼう」をテーマに、講義とワークショップを行いました。今回は本学の事務職員らの講演のみならず、新潟大学の西山係長および寒川主任から、「新大ゆるDXラジオ in OKAYAMA -WORK LIKE PLAY- 働くに、遊びゴコロを」と題し、ラジオ形式で講義を行いました。ワークショップでは、受講者が少人数のグループに分かれ、他大学の事例を参考にしながら、「流行」とは何かを改めて定義した上で、岡山大学が今後キャッチすべき「流行」について議論しました。各グループでは、大学を取り巻く環境や社会情勢の変化を踏まえ、本学の強みを生かした企画や取り組みについて活発な意見交換が行われ、それぞれのアイデアを発表しました。受講者は、他大学の事例から「流行」の本質や実現プロセスについて分析した後、その学びを基に本学が今後取り入れるべき「流行」や具体的な企画について検討し、企画立案の考え方への理解を深めました。

今後も時代に似合う高等教育や大学法人経営等を担える高度な人材育成を戦略的に進めます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15633.html

TOPICS
13

津島キャンパスでオンサイトPPAによる太陽光電力の供給を開始

本学津島キャンパスでオンサイトPPAによる太陽光電力の供給を開始。株式会社中電工と締結したオンサイトPPAにより、2026年8月から太陽光電力の供給を開始しました。津島キャンパス36地点に太陽光発電設備を設置し、全設備稼働後の発電容量は約3.6MW、年間電力使用量の約20%を賄う見込みです。年間約1,850トンのCO₂削減が期待され、脱炭素化の推進とともに、災害時のレジリエンス強化や施設の有効活用にも貢献します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15602.html

TOPICS
14

岡山大学との共同研究が実を結ぶ 洋菓子メーカー・(株)サンラヴィアンが 農林水産省「加工食品CFPモデル事業」に採択～CFPを通じた企業ブランド価値向上に関する共同研究が、社会実装のステージへ～

株式会社サンラヴィアンが、農林水産省「令和8年度加工食品CFPモデル事業」に採択されました。本学は2025年12月からCFP(カーボンフットプリント)を活用した企業ブランド価値向上に関する共同研究を実施しており、その成果が評価されたものです。天王寺谷達将教授の指導のもと、約100製品のCFP算定や表示方法、消費者評価の分析を進めてきました。今後はモデル事業を通じて研究成果の社会実装を進め、地域企業の成長と脱炭素社会の実現に貢献します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15604.html

TOPICS
15

ESDの新たな可能性を探る～国際フォーラム「プラネタリーヘルスと教育の未来」を開催



国際フォーラム「プラネタリーヘルスと教育の未来」を本学と日本ESD学会の共催で開催し、国内外から183人が参加しました。人と地球環境の健康を一体的に捉える「プラネタリーヘルス」の視点から、ESD(持続可能な開発のための教育)の新たな可能性を議論しました。那須保友学長やKartikeya V. Sarabhai氏らが講演し、地域協働型ESDの意義や持続可能な社会の実現に向けた教育の役割について活発な意見交換が行われました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15627.html

TOPICS
16

那須学長がPMI Asia Pacificを訪問～研究開発マネジメント人材育成と大学経営高度化に向けた連携を推進～

本学は、世界最大規模のプロジェクトマネジメント組織であるPMI (Project Management Institute) のアジア太平洋地域を管轄するPMI Asia Pacific(シンガポール)を訪問し、那須保友学長がソヒュン・カンディレクターと意見交換を行いました。大学を取り巻く環境が大きく変化する中、教育・研究活動の高度化に加え、大規模研究プロジェクトの推進、外部資金の獲得、産学官連携や国際共同研究への対応など、大学経営および研究マネジメントに求められる高度なマネジメント能力について幅広く協議しました。また、本学は文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」の研修提供機関として採択されており、プロジェクトマネジメントに関する研修プログラムをPMI日本支部およびPMI Asia Pacificと連携して実施する予定です。さらに、本学とPMIとの共催により開催予定の「アカデミックラウンドテーブル」についても意見交換を行い、大学経営や研究開発マネジメントの高度化に向けた今後の連携の方向性を共有しました。さらに、PMI Asia Pacific関係者とともに、連携教育機関であるSingapore University of Technology and Design (SUTD)を訪問し、研究開発マネジメント人材の育成、国際連携の推進、プロジェクトマネジメント教育の実践事例などについて理解を深めました。一連の訪問や意見交換を通じて、研究開発マネジメント人材の育成と研究支援体制の高度化に向けた有意義な交流の機会となりました。今後も国内外の関係機関との連携を強化し、研究力強化と大学経営の高度化を推進するとともに、J-PEAKSが掲げる研究大学としての機能強化と国際展開の加速につなげます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15656.html

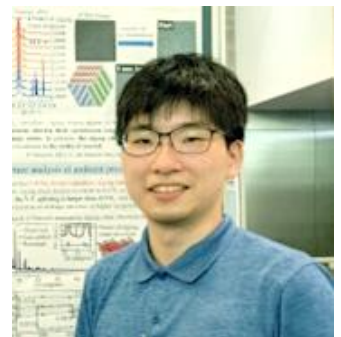
TOPICS
17

金属の中で“分子”が組み替わる～化学結合・金属性・磁性が連動する新しい電子状態を発見～

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域の小島慶太助教、片山尚幸教授、千葉大学大学院理学研究院、北里大学理学部、総合科学研究機構(CROSS)中性子科学センターおよび中性子産業利用推進センターの共同研究グループは、SPRING-8やJ-PARCなどの大型施設を用いた研究により、層状無機化合物 $\text{Li}_{0.5}\text{VS}_2$ (リチウムバナジウム硫化物)において、金属の中でバナジウム原子どうしが「分子」のように結びつき、その結びつき方が温度によって二段階に変化することを明らかにしました。

通常、原子が強く結びつくと電子は動きにくくなりますが、本物質では結合の形が変わっても金属状態を保ち、磁気的な性質も大きく変化しました。今後、組成や圧力などによって原子間結合を制御することで、新しい量子材料の探索につながることが期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1599.html



TOPICS
18

大蘆彩夏助教が「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」を受賞

大蘆彩夏助教(学術研究院環境生命自然科学学域)が、若手女性研究者を顕彰するロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞を受賞しました。同助教は、生命現象の仕組みを分子レベルで解明する研究に取り組んでおり、その独創性と将来性が高く評価されました。本受賞は、研究活動の推進だけでなく、次世代の女性科学者育成や科学分野における多様性の促進にもつながることが期待されます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15639.html

TOPICS
19

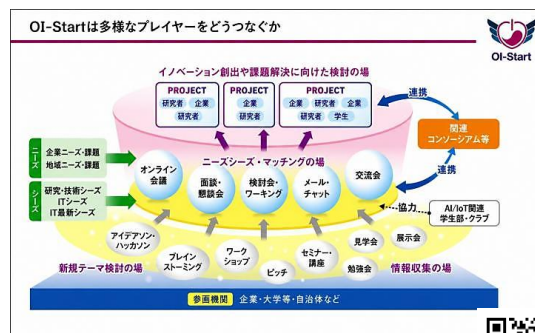
全学共通科目「岡山の地域課題を共に考える」を実施～おかやま地域発展協議体と共催で若者と地域課題への対話～

本学は、おかやま地域発展協議体と共催で全学共通科目「岡山の地域課題を共に考える」を開講しました。約70人の学生が参加し、「若者に選ばれる住みたい・働きたいまちづくり」をテーマに、岡山県、岡山市、倉敷市、中国銀行、山陽新聞社など対話を実施。地域課題への理解を深め、多様な視点から将来の地域づくりを考える機会となりました。本学では、ステークホルダーらとともに地域の課題解決や次世代テクノロジーとの共創等を担える人材育成を推進しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15646.html

TOPICS
20

OI-StartがIPA「ラボ懇談会」でDX・AX伴走支援と人材育成の取り組みを紹介～地域の実課題への伴走を通じ、企業支援と実践的人材育成を一体的に推進～



おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)は、情報処理推進機構(IPA)の「ラボ懇談会」で、地域課題の解決に取り組むDX・AX伴走支援と人材育成の取り組みを紹介しました。河野宏プラットフォームマネージャーは、企業の実課題を起点に大学研究者や学生、支援機関が連携する実践的な学びの仕組みを説明。企業支援とDX・AX人材育成を一体的に進め、地域のイノベーション創出につなげていることを紹介しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15618.html

TOPICS
21

JST START「NEXTグローバル拠点都市の取組に資する追加支援」に採択～岡山大学・岡山理科大学・愛媛大学が連携し、瀬戸内型スタートアップ・エコシステムの形成を加速～

JSTのSTARTにおける「NEXTグローバル拠点都市の取組に資する追加支援」に、本学、岡山理科大学、愛媛大学による連携事業が採択されました。本事業では、大学が有する研究シーズの事業化支援やアントレプレナーシップ教育を強化し、瀬戸内地域におけるスタートアップ創出と成長支援を推進します。3大学が連携することで、研究開発から事業化、人材育成までを一体的に進め、瀬戸内型スタートアップ・エコシステムの形成加速を目指します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15640.html

イチオシの研究設備

【Agilent 8900トリプル四重極 ICP-MS (ICP-QQQ)】

ICP-MS(誘導結合プラズマ質量分析装置)は高周波電力によって生成した高温のArプラズマ中でサンプルを原子化・イオン化し質量分析する装置で、汎用の元素分析装置としては最も感度が高く、多元素の同時分析も可能です。この度、導入したトリプル四重極型ICP-MS Agilent 8900では検出感度、ダイナミックレンジ、マトリックス耐性などの基本性能の向上に加え、従来からあったHeガスによる干渉除去法だけでなく、一段目と二段目のMSの間に反応性のガス(H_2 と O_2 を装備)を導入することで、測定対象の元素に特異的な生成物イオンを検出できます。これにより従来のICP-MSが比較的苦手としていたSi, P, S等の元素も高感度かつ低バックグラウンドで測定できるようになりました。



植物研のICP-MSを用いた元素分析は適切な機器運用のため、技術専門職員による依頼分析を行っています。まずは測定したい元素、サンプルの性状、調製方法などについてお気軽にご相談ください。

研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

J-PEAKSの取り組みとして、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。

【管理者】

資源植物科学研究所 山地 直樹
総合技術部 高見 常明・土屋 善幸



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1301>

